

2006年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2007年2月6日

I 概要

実践団体・担当者名	NPO法人ハドル（担当者：西村 公志）	
連絡先	〒553-0006 大阪市福島区吉野 4-29-20-124 大阪NPOプラザ	
プランタイトル	子供が主役！家族防災ラウンドテーブル！	
目的	低学年を対象とした防災教育の機会を得、ビデオ、CG等の教材により楽しく災害の基礎知識（自宅・学校、通学路周辺の災害危険箇所、避難場所、避難経路など）を学習するとともに、子供たちが独自の防災マップを作成することにより、災害時に取るべき避難行動を身につける。	
プランの概略	<p>小学校にて出前講座を開催し、以下のプランを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●洪水・土砂災害について学ぼう！ ●身近にある危険箇所・避難場所を調べよう！ ●防災マップを作成しよう！ ●防災マップについて話そう！ ●お父さん、お母さんに話そう！ 	
プランの対象と参加人数	●対象：小学生低学年、●参加人数：1) 25人、2) 65人、3) 200人、4)、80人、5) 12人、6) 25人、7) 18人	
実施日時	1) 平成18年6月15日・16日、2) 平成18年6月30日、3) 平成18年7月1日、4) 平成18年10月3日、5) 平成18年10月31日、6) 平成19年1月19日、7) 平成19年1月30日	
主な実施場所	1) 河南町立白木小学校、2) バン・ホイクラール小学校、3) バン・ボンノッホ小学校、4) 太子町立山田小学校、5) 千早赤坂村立千早小学校、6) 茨木市忍頂寺小学校、7) 高槻市榎田小学校	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有
	連携した団体名	●大阪府富田林土木事務所、●大阪府茨木土木事務所、●NPO法人みどり大阪
	連携したきっかけ・理由	●小学校防災教育の普及・継続
	連携団体へのアプローチ方法	●企画書提出、プレゼン
	連携団体との打合せ回数	●大阪府富田林土木事務所（3回）、●大阪府茨木土木事務所（2回）、●NPO法人みどり大阪（2回）
連携団体との役割分担	ハドルは、室内講義、教材提供、カレンダー作成、防災マップ作成を担当。行政は小学校との日程。講義内容内容調整等を行う。	

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	3名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	<ul style="list-style-type: none"> ●西村公志：企画立案、打ち合わせ ●大山田亘：マップ ●若松裕子：カレンダー構成
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2006年5月1日～2006年12月31日
	立案時間	1) 10時間×1回、2) 10時間×1回、3) 10時間×1回、4) 10時間×1回、5) 10時間×1回、6) 10時間×1回、7) 10時間×1回
	上記のうち打合せ回数	1) 1時間×1回、2) 1時間×1回、3) 3時間×1回、4) 5時間×1回、5) 1時間×1回、6) 3時間×1回、7) 3時間×1回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ●講義では、子どもが理解できる表現手法をとること。 ●主体的に、楽しみながらとりくめること。 ●集中力をかせないこと。 <p>出前講座では、以上に留意し、CG、アニメ、水質テスト、クイズ形式、空中写真等を用いてわかりやすくしたこと。また、室内授業だけではなく、野外活動では、川あそびや工事現場見学を通じて、自然環境の大切さを学ぶとともに遊び心、楽しむことを習得。</p>	
プラン立案で 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校とのインターフェイスが見つからなかったこと。 ●教育委員会の関心の低さ。形式主義的なこと。 ●応募時点で、必要なサポートに「教育関係機関との連携、窓口紹介」を記載していたが、紹介状等の実行委員会（事務局）のサポートが全くえられなかったこと。 ●具体的には、教育委員会の中には、防災教育チャレンジプランの紹介状や文面を用意するよう指示があったが、事務局は全く対応せずに、時間だけが無駄に経過したこと。 ●実行委員会との30万円を提供することが、最大のサポートだと話を受け、防災教育チャレンジプラン実行委員会事態の意識が非常に低いこと。事務的になりすぎではないか。 ●そんなに力を入れて取り組む必要はない、1つの小学校だけで実施すればという考えを示された、事務局の意識の低さ。 ●防災教育を実施するために、多くの教育委員会を訪問し、プランの趣旨を説明してきたが、事務局は、実施にいたらなければ、費用は全て個人者負担であるという考え方を示されたこと。 <p>以上、いろいろな立場がありますが、本当の意味で防災教育を行う立場の者は、イベント的なものや一過性の行事をただこなすだけでは、絵に描いた餅のようなもので、このような手法では、いつおこるか分からない災害に対しての備えを充実させることは困難に思えます。</p> <p>大阪府内の山間部には、防災教育が必要とされる120の小学校が点在しています。自宅から小学校までの通学路には多くの土砂災害危険箇所があるにも関わらず、ほとんどの地域住民、子ども達はその存在を知りません。さらに、災害時の避難所自体が土砂災害危険区域内にあることや、避難経路が確保できない地域も多く存在します。私たちの団体は、出前講座等により対話によるわかりやすい防災情報の提供を、これからも丁寧につづけてまいります。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	

Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	3名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	●西村公志：打ち合わせ、出前講座講義 ●大山田亘：マップ、カレンダー作成 ●若松裕子：ビデオ撮影、写真撮影
準備に要した日 数・時間	準備期間	2006年5月1日～2006年12月31日
	準備総時間	1) 10時間×1回、2) 10時間×1回、3) 10時間×1回、4) 10時間×1回、5) 10時間×1回、6) 10時間×1回、7) 10時間×1回
	上記の内打合せ回数	1) 1時間×1回、2) 1時間×1回、3) 3時間×1回、4) 5時間×1回、5) 1時間×1回、6) 3時間×1回、7) 3時間×1回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	●能勢町、豊能町、池田市、箕面市、茨木市、高槻市、島本町の教育委員会、大阪府都市整備部河川室ダム砂防課、池田土木事務所、茨木土木事務所、●茨木市立忍頂小学校、高槻市立榎田小学校、●タイチェンライ県バン・ホイクラール小学校、バン・ポンノッホ小学校
	どのように働きかけたか	●企画書提出、プレゼン ●知人を通じて
	結果	●河南町、太子町、千早赤坂村は継続事業 ●茨木市、高槻市は新規事業として平成19年1月に出前講座を実施
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	●タイチェンライ県：暁の家、オイスカ
	どのように働きかけたか	●知人を通じて ●タイチェンライ県バン・ホイクラール小学校、バン・ポンノッホ小学校で6月に前講座を実施
	結果	タイチェンライ県バン・ホイクラール小学校、バン・ポンノッホ小学校にて前講座を実施
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	なし
	どのように働きかけたか	なし
	結果	なし
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	●土砂災害G I Fアニメーション、●アニメ、●G I Sデータ（土砂災害危険箇所、オルソ画像等）
	入手先・入手方法	●土砂災害G I Fアニメーション：アジア航測株式会社から無償提供 ●困った土石流（アニメ）：山口県土木建築部砂防課から無償提供 ●G I Sデータ：大阪府河川室ダム砂防課から一部無償提供

	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	わかりやすく説明するため
参加者の募集	募集方法	なし
	募集期間	年 月 日 ~ 月 日
	参加予想人数	名
	実際の参加人数	名
	募集方法の成功点	
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した点・工夫した点		なし

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 11月			
12月			
2006 1月	企画書作成		
2月	企画書作成		
3月	企画書作成		
4月	企画書作成 実行委員会へ紹介状の要請		
5月	企画書作成	●能勢町、豊能町、池田市、箕面市、茨木市、高槻市、島本町の教育委員会でのプレゼン	
6月		1) 富田林土木事務所打ち合わせ 2) NPO法人みどり大阪打ち合わせ 3) NPO法人みどり大阪打ち合わせ	1) 河南町立白木小学校、2) バン・ホイクラ小学校、3) バン・ボンノッホ小学校
7月			
8月			
9月			
10月		4) 富田林土木事務所打ち合わせ 5) 富田林土木事務所打ち合わせ	4) 太子町立山田小学校、5) 千早赤坂村村立千早小学校
11月			
12月		6) 茨木土木事務所打ち合わせ	
2007 1月		7) 茨木土木事務所打ち合わせ	6) 茨木市忍頂寺小学校、7) 高槻市檉田小学校

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	子どもが主役！家族防災ラウンドテーブル！ (茨木市忍頂小学校編)			
実施日	1月19日(金)			
所要時間	5分	20分	20分	20分
達成目標	●出前講座の趣旨を理解する	●土砂災害について基礎知識を学ぶ ●身近にある土砂災害危険箇所を知る ●前兆現象について学ぶ	●水質検査結果をもちいて小学校区の地理情報について学ぶ	●小学校区内にある土砂災害危険箇所、避難所の位置を確認する
生成物	●カレンダー用写真	●説明用パワーポイント ●砂災害危険箇所マップ ●カレンダー用写真	●カレンダー用写真 ●小学校区内水質調査結果図	●カレンダー用写真 ●小学校区内土砂災害危険箇所マップ
進め方 (箇条書き)	●概要説明 ●本日のスケジュール	●CG、実災害映像を用いて土砂災害を紹介 ●CGを用いて前兆現象を紹介	●あらかじめ採水した河川の水、水道水、醤油等を用いて、パックテストを行い、水質の調査を行う	●土砂災害危険箇所の記載された空中写真と白図を用いて、通学路にある土砂災害危険箇所を調べる
ツール (特別に用意したもの)	●ノートパソコン ●プロジェクター ●スクリーン	●ノートパソコン ●プロジェクター ●スクリーン	●測定要領 ●パックテスト(テストチューブ、透明コップ) ●カラーシール	●空中写真 ●白図 ●カラーシール
場所	理科室	理科室	理科室	理科室

VI実践後

参加者へのアンケート結果	●小学校にて作成中。提出されない場合もある。	
成果として得たこと	●子どもから発信する防災情報のルート	
成果物	作成中、作成次第提供します。1月30日に出前講座を終えたばかりのため。	
広報方法	広報した先	なし
	広報の方法	
	取材にきたマスコミ	
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	
	成功点	
	失敗点	
全体の感想と反省・課題	<ul style="list-style-type: none"> ●土木事務所との役割分担の明確化 ●わかりやすい表現手法の検討 	
今後の予定	来年度以降の進め方	●大阪府池田土木、大阪府茨木土木事務所と連携し、北摂地域の小学校を対象として出前講座を継続する
	是非実施してみたい取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●父兄参観日等を活用した出前講座の実施 ●異業種交流による防災出前講座（例：落語と防災、音楽と防災、マジックと防災ほか）
自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ●微力ながら、今後も土木行政、教育機関と連携し、出前講座を継続していきます。 ●貴重な体験の場に参加させていただき有難うございました。 ●防災教育を行う場の提供と、周知の方法について、ご尽力を宜しくお願い申し上げます。 	